

FLORA of KOCHI

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

No.56

探してみよう！ 秋編

カワラハハコ（キク科） *Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook.f. var. *yedoensis* (Franch. et Sav.) Ohwi

カワラハハコは北海道・本州・四国・九州に分布するキク科の多年生草本です。高知県に産するヤマハハコ属の仲間は、本種以外にホソバナヤマハハコとヤハズハハコが生育しており、それぞれ生育環境に特徴があります。ホソバナヤマハハコは主に四国山地沿いのササ原や林縁などの向陽地に、ヤハズハハコは石灰岩地に生育します。カワラハハコは河原に生育しますが、河川環境の変化や河川改修などにより絶滅の危機に瀕しており、高知県絶滅危惧ⅠA類（CR）に指定されています。現在確認できている生育地は、県西部の河原の一箇所のみです。かつては野根川や物部川の下流部で標本が採集されており、山中（1978）は、「東洋町、室戸市、安芸市、大豊町、大正町」の産地を挙げていますが、いずれも現在は確認されていません。河原に咲く“ドライフラワー”をぜひ探してみてください。



写真：竹内清治氏（2024年11月5日撮影）

表 高知県産ヤマハハコ属 *Anaphalis* の検索

☐：高知県絶滅危惧カテゴリー

和名 学名		カワラハハコ 県CR <i>A. margaritacea</i> var. <i>yedoensis</i>	ホソバナヤマハハコ <i>A. margaritacea</i> var. <i>angustifolia</i>	ヤハズハハコ 県VU <i>A. sinica</i>
生育環境		河川の砂礫地	冷温帯の林縁・ササ原など	暖帯～冷温帯の石灰岩地
開花期		9-10月	8-9月	8-10月
特徴 (検索キー)	葉	・葉幅：1.5mm ・基部：茎に沿って流れない ・葉縁：著しく裏に巻き込む	・葉幅：2-6mm ・基部：茎に沿って流れない ・葉縁：少し裏に巻く	・葉幅：8-15mm ・基部：茎に沿って流れ、翼をつくる ・葉縁：ほとんど巻かない
	草形	茎はやや散開し、中部より上でよく分枝する	茎葉しばしばゆるく叢生し、花序以外では普通分枝しない	茎はやや散開して直立。花序以外では分枝しない
標本画像				



高知県の植物 ニュース

2022年に新種発表されたキリシマギンリョウソウについて、物部チームの丹念な調査の結果、県内の生育環境の特徴が明らかになってきました。本号では、その取り組みと結果を坂本彰さんにご紹介いただきます。

物部チームのキリシマギンリョウソウ探し

文・写真：坂本彰

物部植物調査チームでは、新種発表を受けて早くからキリシマギンリョウソウ探しに取り組んできました。物部チームで取り組んだ、香美市香北町、本山町、香美市物部町の事例を報告します。

香美市香北町御在所山の調査

御在所山のキリシマギンリョウソウは、2010年7月10日に、当時物部調査チームのメンバーであった竹内久宜氏によって撮影されており、当時は「ベニバナギンリョウソウ？」とされていました。竹内さんの話では、2010年の撮影以降は確認できていないとのことでしたが、多くの目で探せば見つかるかもしれないと考え、2023年7月16日に物部チームの6名と当時牧野植物園の職員であった橋本季正氏で調査しました。登山道を中心にその周辺、主に腐葉土の厚い林内を丹念に探しましたが、キリシマギンリョウソウは見つかりませんでした。最初の確認から10年以上が経過しており、その間の環境の変化が、見つからなかった要因の一つと考えられました。

アカマツに着目

キリシマギンリョウソウについての情報を得るため、生態写真や生育地の画像情報をインターネットで検索すると、少なくない数の写真が公開されています。それらを見たところ、多くの場合、キリシマギンリョウソウの周囲にマツの落ち葉が写りこんでおり、両者になんらかの関連があるのではないかと推測されました。また、現在は削除されていますが、霧島山麓の生育地の写真で、生育地が明るいマツ林であることがわかりました。御在所山での調査の際には認識していませんでしたが、キリシマギンリョウソウ調査の場所として

「マツ（アカマツ）が生えている場所」がターゲットと考えられました。

本山町吉延の調査

筆者が2022年6月25日に本山町吉延で撮影した写真に、キリシマギンリョウソウが写っていました。周辺の写真から、アカマツが生育する環境であり、再発見の可能性は高いと判断されたので、GPSのデータで撮影位置を特定し、物部チーム4名と嶺北調査チーム3名での合同調査を2024年7月5日に行いました。

その結果、写真を撮影した場所から150mほど離れた標高718mの作業道の路肩で4株のキリシマギンリョウソウが確認されました（写真1）。2022年の撮影地と場所は異なるものの、環境はほぼ同じ、アカマツ林を通る作業道の路肩でした。一方、2022年の撮影地点では確認できず、毎年安定して花をつけるわけではないことが考えられました。帰路、使われなくなった作業道の路肩でも果期の個体1株が確認され、環境はアカマツを交えた落葉広葉樹林で、標高は670mでした。

香美市物部町の調査

ここは、物部チームのメンバーがインターネットでキリシマギンリョウソウを検索して見つけました。2024年6月6日にInstagramに投稿された写真には15株以上のキリシマギンリョウソウが写っており、規模の大きな生育地であることが推測されました。

2025年6月16日に予備調査を行い、調査予定地へのルートを確認し、予備調査の結果とInstagram投稿者から提供いただいた踏査ルートをもとに、物部チーム5名で2026年6月13日に



写真1 本山町吉延の生育地



写真2 香美市物部町の生育地

調査を行いました。

生育地は北東方向に延びる、幅が広い尾根筋にあり、標高560mから670mの間に8か所の生育地が確認できました。個体数は、1か所あたり1株から多いところでは38株あり、全体で103株確認しました。生育環境としては、ヒノキ林にアカマツと常緑広葉樹（ヒサカキなどの低木）が点在、アカマツにモミと常緑広葉樹が混じるといった具合に、判然としない林相でしたが、多い少ないは別にして、アカマツは共通して見られました。林床の植生は貧弱で、低木や草本類はほとんど見られず、見通しのきく、明るい林でした（写真2）。

まとめにかえて

物部チームが確認した香美市、本山町の生育地は、アカマツが生えていて、林床の植生が貧弱な明るい林内、林縁でした。徳島県立博物館が行った、徳島県佐那河内村および吉野川市におけるキリシマギンリョウソウの生育地調査でも、ほぼ同じような結果が得られています（内藤ほか2026）。これらのことから、高知県でキリシマギンリョウソウと出会うためには、まず、「アカマツが生えている明るい林」を探せば、発見の可能性が高いと考えます。

キリシマギンリョウソウについては、まだまだ

確認事例が少なく、生態を解明するにはさらに多くの生育地の発見が必要です。調査の適期がちょうど梅雨時になりますが、多くの調査ボランティアによって、新たな生育地が発見されることを期待しています。林床に咲く淡いピンクのキリシマギンリョウソウは、見た目に可愛く、発見の努力が報われる花です（写真3）。



写真3 キリシマギンリョウソウ（香美市物部町）

【参考文献】

内藤芳香・須田俊子・古山道子・乾和輝・茨木靖・末次健司, 2026. 徳島県および四国地方におけるキリシマギンリョウソウ *Monotropastrum kirishimense* Suetsugu の初記録. 徳島県立博物館研究報告 36: 137-142.

高知県の植物方言云々（1）

文・写真：鴻上泰

高知県には方言に関する研究資料は多いのですが、植物名の方言については余り多くはありません。樹木に関しては『四国樹木方言集』（1936）が良く知られており、ネットでも検索できます。また、倉田悟先生の『日本主要樹木名方言集』（1963）をはじめ、樹木と方言に関する著作（倉田 1969）も参考になります。これらの全国の植物方言を集成したものが八坂書房の『日本植物方言集成』（2001）で、上記の文献も含まれており、最も参考になります。今回から、これらの文献からいくつかを選んで紹介します。

アカメガシワ

新しい葉芽が赤く（写真4）、昔、葉に食物を盛ったり包んだりしたことからカシワの名がついたとされています。高知県にも“かしわ”（四国）、“かしわぎ”（四国）、“かしわご”（幡多）、“かしわのき”（幡多）、“かわらがしわ”（高知）、“かわらしば”（幡多）、“かーらがし”（土佐）“さいもりしば”（高知・幡多）、“すししば”（幡多）、“すしば”（幡多）、“すずしば”（幡多）、“やまがしわ”（高知）などの方言があります。これらの名は盆や祭祀の際に、お供えの食物をこの葉に盛ったり、寿司を包んだことなどに由来するものと思われます。

岩井（2025）には「土佐では端午の餅を赤芽柏やさるとりいばら、椿などの葉で包む」との記述があります。一方で、高知県には古い呼び名がよく残っていて、古名である“ひさぎ”に由来する

のが、“ひさげ”（幡多）、“ひしゃげ”（幡多・高岡）、“ひしゃげのき”（高岡）、“ししゃげ”（幡多）、“はしかぎ”（高岡）などの呼び名です。そのほかには現行名の“あかめがしわ”（高知）とか“あしぼ”（安芸）などの呼び名もあります。また、岩井（2025）にはアカメガシワの樹皮を剥いで干し、束ねておくとう京都の薬種問屋が買い付けに来ていた、との記述もあり、生薬として流通していたこともうかがえます。

アカメガシワの葉の転写あそび

イヌビワの汁を手に塗り、アカメガシワの赤い若葉を貼ると葉の姿が転写できる、という遊びは各地で知られています。ただし、イヌビワの乳汁には光毒性接触皮膚炎を起こすソラレンが含まれ、塗りつけた部位が紫外線を吸収して日焼けを起こし、かぶれたようになることもあるので、注意が必要です（南谷 2019）。



写真4 アカメガシワの新葉

【引用・参考文献】

岩井信子. 2025. 端午の柴餅一木の葉で包むー. 伝えたい土佐の民俗. pp. 70-71. 高知新聞社, 高知.
倉田悟. 1963. 日本主要樹木名方言集. pp. 107-110. 地球出版, 東京.
倉田悟. 1969. 樹木の方言名. 植物と民俗. p.90. 地球社, 東京.
南谷忠志. 2019. 宮崎の植物方言と民俗. pp. 27-28. 鉾脈社, 宮崎.
八坂書房(編). 2001. 日本植物方言集成. pp. 10-12. 八坂書房, 東京.
高知営林局(編). 1936. 四国樹木方言集. pp. 114-115. 高知営林局, 高知.

■ 令和8(2026)年度下半期 分類学セミナー・研修会などのお知らせ

下半期は次のとおりセミナー・研修会を開催します。参加ご希望の方は、資料の準備などがありますので、必ず事前にホームページからあるいはお電話でお申込みください。



▲ 分布調査HP

【申込先】

HP : <https://makinofok.jp>
 メール : floraofkochi@makino.or.jp
 電話番号 : 088-821-8739
 (事務局直通、土日祝日を除く9-17時)
 FAX番号 : 088-882-8635 (代表)

屋外研修会

フィールドに出て生の植物を観察することで、調査中に役立つ識別能力を身につけることを目標としています。

■ シダ植物研修会

9月26日(土)

講師：堀清鷹（牧野植物園研究員）
 場所：香美市土佐山田町平山
 時間：10:00～12:00 定員：10名
 内容：会場周辺に生えるシダ植物を観察し、標本の採集・仮押しの仕方を学びます。
 ※野冊・新聞・ルーペをご持参ください。

■ 草原生植物研修会

10月25日(日)

講師：比嘉基紀氏（高知大学理工学部准教授）
 場所：高知市皿ヶ峰
 時間：10:00～12:00 定員：10名
 内容：草原に生える植物を観察しながら、見分ける・見つけるポイントを学びます。

■ 落葉樹木研修会

11月1日(日)

場所：日高村錦山公園
 時間：10:00～12:00 定員：12名
 内容：特徴を観察し、20種類覚えることが目標です。

■ 常緑樹木研修会

12月5日(土)

場所：高知市五台山
 時間：9:30～12:30 定員：12名
 内容：特徴を観察し、30種類覚えることが目標です。

※雨天中止

※各研修会の集合場所は、お申込み後にご連絡いたします。

※セミナーや研修会、調査中に写真を撮影します。撮影した画像は牧野植物園の年報および広報媒体等に掲載させていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

分類学セミナー

■ イカリソウ属（初級～中級）

2027年3月(予定) ※日程調整中

講師：三村真紀子氏（岡山大学環境生命自然科学学域教授）
 場所：牧野富太郎記念館本館 映像ホール
 定員：50名
 時間：10:00～12:00
 内容：イカリソウ属の最新の研究で明らかになったことを紹介し、見分け方についても解説します。

特定外来生物アレチウリの普及啓発チラシが完成！



県内の主要河川で分布を拡大中のアレチウリに対して注意喚起・防除を呼びかける普及啓発チラシを作成しました。是非お知り合いの方にもご共有ください。分布調査HP・園HPでもご覧いただけます。

■ 令和9年度のボランティア更新について

調査ボランティアの登録期間は1年間です（年度更新）。研修会やセミナー、調査（個人調査も含む）など12月31日までに1回も活動されなかった場合、原則*自動退会とさせていただきます。次年度の継続のご案内もお送りしませんのでご注意ください。

*キャンセル待ち等、事務局の都合で活動できなかった場合を除く。

■ 高知県の植物に関する問い合わせ

平日の9時から16時半まで野生植物分布調査事務局職員が対応します。押し葉標本等の持ち込みについては、職員が不在の場合がございますので、メールあるいは電話にて前日までに必ず事前のご連絡をお願いいたします。

なお、野生植物に関する全般の問い合わせは、月・水・金の16時から17時に植物園の植物相談窓口（088-882-2723）で受付しています。分布調査事務局の電話番号とは異なりますのでご注意ください。

■ 編集後記

本号では、チーム活動で行ったキリシマギンリョウソウの調査の結果について、坂本彰氏にご執筆いただきました。ありがとうございます。また、本号より県内の植物にまつわる方言や利用法など、将来失われていくであろう情報についてまとめ、掲載していきます。皆様のご協力により県内の植物の研究は少しずつ進んでいます。なお今後一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。